

# NCU 家族・人口変動のもとでの世代間関係の変容と福祉レジーム



人文社会

**Keywords** エイジング、ライフコース、発達



安藤 究 教授

**所属** 人間文化研究科 ジェンダー・福祉・社会学

**専門分野** 社会学

**所属学会** 日本社会学会、日本家族社会学会、関東社会学会、東海社会学会 他多数

**HP** <http://www.nagoya-cu.ac.jp/human/index.html>

## 研究概要

平均余命の伸長と合計特殊出生率の低下は、「相対的に多くの孫と、相対的に短い期間成立する祖父母－孫関係」から、「相対的に少ない孫と、相対的に長期間成立する祖父母－孫関係」へと世代間関係の構造を変化させました。さらに、「家制度から夫婦中心の家族へ」「家族の個人化」という家族変動によっても、自明とされていた祖父母のスタイルは大きな変容を遂げています。本研究ではこの変容しつつある世代間関係について、家族人口変動に加えて福祉レジームの影響を検討し、国際比較のもと考察します。

## ① 関連する論文

- Ando, K. 2005, Grandparenthood: Crossroads between gender and aging, *International Journal of Japanese Sociology*, 14: 32-51.

## 👍 今後の展望/実用化イメージ

国際比較のもとステレオタイプ的な祖父母イメージを相対化しつつ、人口学的条件の変化や家族変動のもとでこそ可能となるような、新たな世代関係の方向性を探って行きたいと考えています。

## 問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター  
 (桜山キャンパス本部棟2階/事務局学術課内)  
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  
 (名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ)  
 ☎ 052-853-8309 FAX 052-841-0261  
 ✉ [ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp)



## 関連する著書



安藤究,「祖父母であること～戦後日本の人口・家族変動のなかで～」  
名古屋大学出版会, 2017年



安藤究,「ライフコースの変容と『祖父母であること』」松信ひろみ編著『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち [第2版]』  
八千代出版, 2016年, 117-139頁



安藤 究, 2019, 「祖父母・孫関係：理論から家族をとらえる」西野理子・米村千代編著『よくわかる家族社会学』  
ミネルヴァ書房, 104-109頁



## 研究者からのメッセージ

ミクロレベルでの世代間関係を材料としながら、ミクロレベルの要因だけでなく、マクロなレベルの要因がミクロなレベルに及ぼす影響についても留意しつつ、分析や考察を進めて参りたいと思っています。